

**2007年度 日本文化人類学会
第6回 理事会 議事録**

日時：2008年3月26日（火）14：00～17：00

会場：東京外国語大学 本郷サテライト 7階会議室

出席者：須藤、赤堀、上杉、大塚、小田、春日、窪田、関、棚橋、森山、山本、吉岡、和崎

委任状提出：栗本、スチュアート、瀬川、田中、富沢、永渕、松岡、松田、三尾

〔承認事項〕

1. 前回（2007年度第5回）理事会議事録

〔報告事項〕

1. 庶務理事報告

- ・新入会員（23名）につき総務会で入会を承認したことを報告。
- ・第23回評議員選挙の日程、投票率、選出された新評議員について資料に基づき報告。

2. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会（吉岡理事）：今期、メールで編集会議を開催することが多かったが、特に問題なく会議を進めることが可能であったことを報告。
- ・JRCA編集委員会（窪田理事）：“JRCA” Vol.8の刊行準備が日程通り順調に進んでいることを報告。また、印刷会社から確認のために原稿をPDFファイルで執筆者に送付することについては今後確認が必要とされた。
- ・広報・情報化委員会（山本理事）：今年度『文化人類学』72巻3号までアップデートの予定であることを報告。
- ・研究大会（和崎理事）：資料「第41回研究大会報告書・決算報告」に基づき報告。
- ・地区研究懇談会担当委員：関東地区担当上杉理事より、2月10日に関東地区研究懇談会「人類学バトル」、3月22日に関東地区「修士論文・博士論文発表会」が開催されたことが報告された。また、修士論文・博士論文発表会の発表者の募集方法について理事の間で意見交換が行なわれ、メールでの周知方法に工夫を行なうこと等が提案された。
- ・倫理規定検討委員会（欠席の松岡理事に代わって須藤会長）：前回理事会にて承認された倫理綱領（案）を次期理事会へ申し送ることを確認。
- ・学会賞選考委員会（関理事）：第3回学会賞・学会奨励賞選考理由を資料に基づき説明。
- ・文化人類学教育特別委員会（森山理事）：2月27日に国立民族学博物館にて委員会を開催し、日本地理学会、日本学術会議、中央教育審議会の情報等を収集した。引継ぎ文書の作成を行なったことを報告。
- ・『文化人類学の中事典』編集委員会（棚橋理事）：順調に進行中、4月以降編集作業が本格化する予定であることを報告。
- ・連携事業実行委員会（理事会外委員会）：須藤会長より、「日本文化人類学会と国立民族学博物館との連携事業に関する協定」を平成20年（2008年）2月27日付で結んだことが資料に基づき報告された。また、欠席の栗本理事に代わり、3月21日開催の実践人類学連携事業実行委員会及び3月22日開催の実践人類学ワークショップについて資料に基づき説明があった。

〔審議事項〕

1. 2007年度事業報告・2008年度事業計画（案）について

- ・小田理事より、資料に基づき説明があり、途中案が承認された。空欄部分については担当委員に報告を依頼した。

2. 2007年度決算・2008年度予算（案）について

- ・棚橋理事より、資料に基づき説明があり、承認された。また、4月12日に2007年度会計監査が

行なわれることが報告された。

3. 学会賞選考規則の改正について

- ・小田庶務理事より、日本文化人類学会賞選考規則改正案が提案され、承認された。主な変更点は下記下線部の通り。

改正前)

3. 日本文化人類学会賞

趣旨

日本文化人類学会会員による研究活動の活性化のために、会員の中から過去5年間の研究活動において、もっとも優れた業績をあげた者を原則として1名選出し授与する。

選考方法

2) 学会賞選考委員会は、評議員会の推薦を受けて、候補者の過去5年間の主要な業績を比較検討し、原則として1名の日本文化人類学会賞候補者を選考し、理事会に推薦する。

改正後)

3. 日本文化人類学会賞

趣旨

日本文化人類学会会員による研究活動の活性化のために、会員の中から近年の研究活動において著しく優れた業績をあげた者を原則として1名選出し授与する。

選考方法

2) 学会賞選考委員会は、評議員会の推薦を受けて、候補者の過去5年間を目安とする近年の主要な業績を比較検討し、原則として1名の日本文化人類学会賞候補者を選考し、理事会に推薦する。

- ・上記の変更に伴い、授賞候補者に関する投票依頼書・投票用紙の変更が確認された。また、投票は無記名で行なうことと、それに伴う投票手順の変更が承認された。
 - ・大塚理事より、投票用紙を評議員に電子ファイルで配布することが提案され、承認された。この件は次期理事会へ申し送ることとし、配布方法についてはメール添付、ホームページからのダウンロード等検討が必要であることが確認された。
4. 第3回日本文化人類学会学会賞・学会奨励賞選考理由について
- ・小田理事より、第3回日本文化人類学会学会賞及び学会奨励賞の授賞理由の総務会案が提示され文言調整の上承認された。授賞理由はホームページに掲載することが確認された。
5. 学術会議シンポジウムの後援について
- ・日本学術会議のシンポジウム「高校教育における時間と空間認識の統合ー世界史未履修問題をどう解決するかー」の後援を行なうことが承認された。
6. その他
- ・新旧合同理事会に向けて、各担当理事に引継ぎ文書の作成を依頼。新旧合同理事会に出席できない場合は小田理事に事前に引継ぎ文書を送付することとした。
 - ・“JRCA”の海外配布・販売に関し、窪田理事よりもっと海外で購読してもらいたいとの意見が出された。また、インターネット上の『民族学研究』/『文化人類学』データベースに、“JRCA”も加えてはどうかとの提案があった。これらの件については“JRCA”の位置付けも含め次期理事会で検討を行なうよう申し送ることとした。
 - ・須藤会長より、第22期理事の2年間の協力と貢献に対し謝辞が述べられた。

(以上)